

2025 年 7 月 7 日
ジェイファーマ株式会社

**第三者割当増資および新株予約権の行使により 4.7 億円の追加資金を調達
累計調達額は約 134 億円に到達**

ジェイファーマ株式会社（本社：東京都港区浜松町一丁目 10 番 11 号、代表取締役社長 吉武 益広）は、第三者割当増資（F ラウンド）による総額 4.2 億円に加え、新株予約権の行使による 0.5 億円の払い込みにより、総額 4.7 億円の追加資金調達を実施いたしました。これにより、昨年度の最大調達額である 57.7 億円^{*1}を含め、当社の累計資金調達額は、最大約 134 億円（補助金含め）に達しました。

* 1 「ジェイファーマ、最大 57.7 億円の資金調達を達成～LAT 1 阻害剤のグローバル開発を加速～」を参照（2025 年 4 月 1 日ニュース）

資金調達の背景と目的

当社は、LAT 1（L 型アミノ酸トランスポーター 1）阻害剤「ナンプランラト」及び「JPH034」の研究開発を加速させるため、資金調達を実施しました。

ナンプランラトについては、難治性胆道がん患者を対象とした国内第 2 相臨床試験を成功させ、2024 年度第 2 四半期に米国 FDA とグローバル臨床第 3 相臨床試験デザインの概要について合意しました。2025 年度中のグローバル第 3 相臨床試験開始、2030 年度のグローバル承認取得を目指します。

JPH034 は多発性硬化症を対象に開発を進める LAT 1 阻害剤で、2025 年度中の米国 FDA に対する Investigational New Drug (IND) 申請、米国第 1 相臨床試験開始を予定しており、国際的な展開を視野に開発を加速します。今後も、日本の創薬ベンチャーの成功事例となるべく、世界の患者様の希望を届ける革新的な医薬品の開発に引き続き尽力してまいります。

調達した資金の使途

- ナンプランラトのグローバル第 3 相臨床試験
- ナンプランラトのその他の非臨床・臨床試験
- JPH034 の米国 FDA IND 申請
- JPH034 の米国第 1 相臨床試験
- LAT 1 を標的とした新規薬剤の探索

引受先

既存投資家

- ・みずほキャピタル株式会社
- ・Kepple Liquidity1 号投資事業有限責任組合

新規投資家

- ・リカケンホールディング株式会社
- ・株式会社宮田総研
- ・その他、機関投資家 1 社、個人投資家等 5 名

ジェイファーマ株式会社 代表取締役 Co-CEO 舩屋圭一のコメント

「私が代表取締役 Co-CEO として当社に参画してから、早くも 3 か月が経ちました。当社がこれまで培ってきた卓越した研究開発の成果を基盤に、事業としてさらに加速・飛躍させるための具体的な施策を着実に進めており、その手応えを強く感じています。

そしてこのたび、当社のサイエンス、研究開発の実績、そして将来に向けたビジョンにご共感・ご期待を寄せてくださった多くの投資家の皆様より、新たなご支援をいただくことができました。これは私たちにとって大きな励みであり、大変心強い追い風です。

この勢いを追い風に、私たちジェイファーマは、全社一丸となって、さらなるイノベーションの創出と社会への価値提供に向けて、全力で取り組んでまいります。」

引受先のコメント

みずほキャピタル株式会社

インベストメントマネージャー 佐々木 海太

「LAT1 阻害薬を中心とするジェイファーマ社のパイプラインは、がん代謝を標的とした次世代型抗がん治療として、世界的に高い注目を集めています。FDA との交渉を経て、米国でのグローバル第 3 相治験の開始を予定するなど、資金・ビジネス・開発の各面で、バイオベンチャーとして極めて困難な課題を一つひとつ乗り越え、着実に成果を積み重ねてこられた点に深く敬意を表します。

SLC トランスポーター創薬の先駆者としての技術力に加え、舩屋氏を迎えたことで経営体制も一層強化され、今後の展開に大きな期待を寄せています。

弊社も株主の一員として、同社の持続的な成長と価値創出に引き続き貢献してまいります。」

株式会社ケップルグループ

プリンシパル 多田摩耶氏

「ジェイファーマ社に株主として参画し、今後の飛躍を間近で拝見できることを嬉しく思います。

同社の LAT 1 阻害薬は、がん治療薬として素晴らしい治験進捗とデータを示し、グローバルに注目されています。そのポテンシャルはがん治療にとどまらず、免疫機能の調整などを活かした他疾患への応用も非常に楽しみです。

同社の卓越した経営チームは、日本の創薬スタートアップの発展を牽引する存在になると期待しています。本年 4 月の舩屋氏の参画により、一層大きな成長と技術基盤の強化が進展するでしょう。弊社もその一助となれるよう努めてまいります。」

リカケンホールディング株式会社

代表取締役社長 森川洋子氏

「舩屋さんには前職で経営者として事業を牽引されていた頃より長年にわたり、会社として本当にお世話になっておりました。仕事上で様々なバイオベンチャーの会社とお取引させて頂いておりますが舩屋さんの会社を発展させる力、技術開発、価値の創造は類を見ないものであると感じておりました。この度新しい会社で更に社会に貢献できるがんの治療薬を促進させることは私どもの会社理念とも通じるものであり、期待を込めて僭越ではございますが株主に名前を連ねさせて頂きました。これからの発展をますます楽しみにしております。」

株式会社宮田総研

代表取締役社長 宮田満氏

「バイオの心の盟友である舩屋さんが、ジェイファーマに参画する企図と決意を知り、少しでも支援申し上げたいと考え、少額ですが出資させていただきました。前職で特殊環状ペプチドを医薬として仕上げ、わが国のバイオ・ベンチャーの数少ないユニコーンに育て上げた舩屋さんの次なる挑戦が、次世代の低分子創薬のイノベーションであります。巷間言われるバイオ医薬や中分子創薬だけに目を奪われていない先見性が成就し、治療薬の無い患者さんに革新的治療薬を提供できることを楽しみにしています。」

【本件に関するお問合せ先】

ジェイファーマ株式会社 担当 管理部・広報

TEL：03-6432-4270

<https://www.j-pharma.com/contact>